

学校教育目標

「児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己実現と共生に向けて主体的な取組が行える児童生徒の育成を目指す」

令和4年度
学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
- (2)学校から積極的に情報を発信し、家庭・地域とさらに、多様に、つながります。
- (3)校務や教育におけるICT機器の活用を推進します。
- (4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
- (5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

	学部・分掌目標	具体的な取り組み
小学部 重点目標 (3)(5)	1 キャリア教育における挨拶と人とのかわいさを重視し、自分なりの方法で挨拶や返事を行うことができるよう指導支援を行う。 2 キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、係活動等決められた仕事に取り組むことができるよう指導支援を行う。	1 朝の会や授業の活動の中で、呼名し返事をする場面を設定する。また、登下校時にも「おはようございます」「さようなら」という場面を設定し、毎日継続して取り組む。 2 児童の実態に応じた係活動を設定し、ICT機器を活用しながら写真やイラストで活動内容を確認できるようにする。手順表を作成したり、繰り返し取り組んだりする中で、一人でできるように支援していく。
中学部 重点目標 (3)(5)	1 キャリア教育における場や状況に応じて適切に行動することを重視し、状況に応じた挨拶を知り、適切な言葉遣いや他者との関係を意識できるよう指導支援を行う。 2 キャリア教育における役割の理解と実行を重視し、自分の役割を理解し、やり遂げようとする態度・意欲を身につけられるよう指導支援を行う。	1 「おねがいします」「ありがとう」等、その場に応じた挨拶や言動をする場面を設定する。ICT機器等を活用し、指導方法を工夫する。音声だけでなく、手話や文字・絵カード等、個々に応じた表現方法を工夫する。 2 学級の当番活動や係活動を設定し、生徒に応じて取り組みやすいように支援等を工夫する。取り組みやすい活動から始め、経験を積む機会を確保する。どの生徒にも役割を与え、その内容をわかりやすく明確に示す。
高等部 重点目標 (3)(5)	1 卒業後の生活を見据え、挨拶、返事、身だしなみを含めた人との接し方を身につけることができるよう、指導支援を行う。 2 他者との関係の中で、お互いの役割を尊重して助け合ったり、協力したりすることができるよう、指導支援を行う。	1 各教科、課題学習、HR等において、個々の課題に応じて、語先後礼の挨拶、適切な声の大きさでの返事、身振りの応答、ハンカチの携帯、服装のチェックなどの目標を設定し、わかりやすく提示するなどして自発的に取り組めるようする。ICT機器を活用して、理解が深まるようにする。 2 朝の会、終わりの会、係活動などにおいて、自分の役割を理解した上で、友だちの役割を尊重したり、助け合ったりできるよう、場に応じてわかりやすく説明する。また、友だちと協力して取り組む場面を多く設定する。
分教室 重点目標 (2)(3)(5)	1 人とのコミュニケーション能力を育むために、「交流および共同学習」の継続及び充実を図る。また、その様子や成果を保護者と共有する。 2 学校での教育活動において、ICT機器の活用を推進することで、情報活用力の向上と情報モラルの育成を図る。また、その様子や成果を保護者と共有する。	1 感染症拡大防止策を考慮し、計画的・段階的に取り組むと共に、状況に応じたプログラムの準備をしておく。 また、取り組みの様子や成果は、ブログや各通信を通し丁寧に広報を行う。 2 「総合的な探究の時間」や「職業」「課題学習」等において、タブレットやノートパソコンなどを使った学習を積極的に取り入れる。また、その際に取り扱いマナーや情報の取捨選択の方法を身に付けることについても指導する。その様子や成果はブログや各通信等を通じて丁寧に広報を行う。また、特別支援学校技能検定（パソコン部門）の受検で成果を確認する。
訪問教育 重点目標 (2)(5)	1 生活のリズムを整え、健やかに生活できる力を育むために、家庭、医療、福祉との連携を図る。 2 スクーリングや校外学習に参加したり、タブレット映像での交流を行ったりして、同年代の友達と触れ合う機会を充実させる。	1 主治医や理学療養士等の指導助言を活用して、家庭との連携も大切にしながら授業時間の設定や学習内容を決定する。 2 同年代の学年やクラス、学部の教師と積極的に連携を図り、同学年の学習内容の設定や同学年の学習している映像を見て、他者と触れ合うことで豊かに生活できるようにする。

	学部・分掌目標	具体的な取り組み
支援部 重点目標 (2) (4)	1 全校児童生徒の状況を把握し、校内の関係部署や外部の関係機関と有効につながり支援する。 2 家庭・福祉・学校の連携を推進し、児童生徒へのより良い支援を行う。	1 担任間で共有し、相談用紙等を活用して情報を発信する。日頃の様子等と合わせて必要に応じて校内の関係部署と共有し、福祉や専門家について児童生徒の支援をすすめる。 2 三者間の連携について職員会議等で周知する。保護者には懇談会やプリントにて説明を行い、連絡帳の共有の希望を確認する。事業所にはプリントやホームページ、連絡協議会等にて周知する。日々の情報共有や連携会議等には適宜対応する。
総務部 重点目標 (2) (3)	ホームページの内容の充実に向けて改編を更に進めていく。	1 学校行事やブログ等、閲覧頻度の高いバナーがホーム画面から見やすいように表示し、更新が進んでいないコンテンツの内容を見直す。 2 行事や日常の授業等の様子を、個人情報に配慮しながらを活動の様子がより伝わる写真を選定してブログを掲載する。
教務部 重点目標 (3) (5)	1 校務支援システムの導入を円滑に進める。 2 教育課程の見直しを行い改善する（キャリア教育につながる教育課程を編成する）。	1 校務支援システムの導入に向けて研修会を行う。校務支援システムの運用マニュアルを作成する。 2 各種教育課程委員会において現行の教育課程を評価し、見直しに関する議論を深める。
進路指導部 重点目標 (2) (5)	1 わかりやすく情報を発信し、学年と連携しながら保護者へのサポートを充実する。 2 本人にとってよりよいキャリア形成を進めながら進路指導を行う。	1 進路通信の内容を吟味し、わかりやすく伝えるように工夫する。学年からの発信や担任との連携を丁寧に行う。 2 保護者、担任、進路指導部が連携し、授業だけでなく、学校生活全般、家庭生活を併せて生活自立や社会自立に向けた生活指導を行う。
生徒指導部 重点目標 (1) (2)	児童生徒の心や体を守る校内環境づくりを行う。	感染状況に合わせて訓練行事などを見直し、取り組む。 児童生徒会を中心に、児童生徒が主体的に仲間づくりの取り組みができるように推進する。
保健部 重点目標 (1) (2) (4)	1 児童・生徒が健康で、安心、安全な学校生活を送るため、状況に応じた感染症対策を継続する。 2 児童生徒に自らの健康を守るための能力を身に付けさせるため、感染症の予防対策を含む保健学習を行う。 3 安全・安心な学校給食の実施に努め、旬の食材を使用するなど、献立内容の充実を図り、学校給食を「生きた教材」として活用した指導を行う。	1 感染症対策においては、家庭、学校全体で連携する。また、校医などの専門家の意見を参考にし、保護者や職員に積極的に情報発信を行う。 2 月間保健目標及び給食目標についての学習を通じて、心身の健康教育を行う。 3 給食だよりを通じて、食についての情報発信をする。また、「こんだてひょう」の一口メモを活用し、毎日の給食指導につなげる。
研究部 重点目標 (4) (5)	1 研修会等を通して、PDCAサイクルを考えた授業づくりを共通認識し、研究日等を活用しながら、「子どもがわかって主体的に動ける授業づくり」を学年等で考え、実践する。 2 校内研修会や公開研究授業を参観することを通して、授業の取り組み方や子どものいろいろな支援方法の研修会を行う。	1 児童生徒の「つけたい力」を考え、観点別評価シート等を活用して、授業前後の評価を行うことで、一人ひとりに適した支援方法を模索する。 2 感染防止を念頭に置き、授業づくりや支援方法等に関する校内研修会の内容、方法等を検討する。公開研究授業においても、参観の仕方や反省会の持ち方などを検討する。
自立活動部 重点目標 (4) (5)	1 自立活動研究日を計画的に運用し研修機会を設定する。 2 児童生徒の実態に基づく専門的な指導方法を共有し、充実させる。	1 各学部の状況に応じて自立活動研究日を設定し、効果的に運営する。 2 授業交流、事例研究、専門家の情報等、実践的内容で企画する。